

▶ S-KYT(消防団危険予知訓練)研修を実施して ◀

出雲市消防団事務局

1. 消防団の概要

出雲市消防団は、平成31年4月1日現在、消防団員数1,727名、うち女性消防団員8名(団本部付)、1本部、15方面隊、45分団で構成されています。



2. S-KYT研修開催の経緯

出雲市消防団では、消防団活動時における公務災害の発生を未然に防ぐことが、健全な消防団活動に必要な不可欠であることから、公務災害ゼロをスローガンに、災害活動時や各種訓練時における安全管理の徹底を消防団活動の基本方針として定め、消防団員等公務災害補償等共済基金の助成・後援を受け、平成12年から毎年S-KYT研修を実施しています。今日に至るまで

の延べ受講者数は、1,000名を数えます。



3. S-KYT研修を受講して

平成30年度に実施したS-KYT研修では、各分団から団員数に応じて班長以上の1～2名ずつを対象にし、2日間で76名の団員が受講しました。講師は、消防職員のOBの方で、公務災害の特徴や危険予知の必要性をわかりやすく説明していただきました。指差し呼称などの実技を通し、指で指し示し呼称することで、安全確実性の効果を上げる、との本研修の目的を理解することができました。

また、現場に潜む危険に対してどのように対処すればよいのか、班で考え発表しました。研修が進むにつれ、班員同士にも連携が生まれ、

活発な意見を交わすことができ、全員が基本的な理念を理解し、「自分のもの」にすることができました。

4. 研修アンケートの結果について

前述のとおり、当市消防団でS-KYT研修を受講した団員は少なくなく、歴代の団長の中には、事業所のKYT活動で実績を上げてこられた方もおられるなど、S-KYT研修に対する熱意も非常に高い消防団であると思います。しかし、この度のアンケートから問題点が浮かび上がりました。次の3つのご意見を紹介します。

- ①持ち帰って最初から全部行うことは難しい。
- ②基礎的なことは理解できたが、いざ実践となると難しい。
- ③消防団は集まる機会も少なく、その上、一人だけ受講しても体裁や照れくささも分団に持ち帰って内容を教えるのは難しい。

このことから、今までの研修が参加団員一人の研修で留まり、実践が停滞していることが明らかとなりました。あらためて、研修受講者が分団においてリーダーとなり、教える立場としてS-KYT研修を実施することの難しさを認識しました。

5. 今後の取り組みについて

そこで、事務局は更にひと手間をかけ、分団（当面、方面隊単位）に出向いてS-KYT研修の進め方、その取り掛かりをサポートすることで全体の雰囲気作りをし、S-KYTの実践に繋げるべく取り組んではどうかと考えています。

特に、「指差し呼称」「指差し唱和」を励行し、来年の消防出初式では、全団員で力強くスローガンを指差し唱和し、ゼロ災活動の決意表明を

することで、更なる団結心の醸成を目指したいと思います。



6. 出雲市消防団の安全管理について

平成30年度は、消防操法に関するアンケート結果を基に、島根大学医学部と提携し「出雲市消防団消防操法ウォームアップ・クールダウンメニュー」を作成しました。出雲市消防本部のHPから誰でも閲覧できるようにし、パフォーマンスの向上はもとより、公務災害の防止に向けて取り組みを開始しました。

また、団員全員が同じ認識で訓練や現場活動が行えるよう、出雲市消防団安全管理マニュアルを整備しました。この内容を令和元年5月に実施した幹部教養訓練に取り入れ、共通認識を

持った活動が行えるよう活用しています。

的確な現場活動は、指揮者の創作ともいえる「安全」という土台があって初めて可能になります。これらの取り組みを随時検証し、さらに充実した「安全」を団員の皆さんに提供できるよう、研究を進めます。

7. 最後に

今回の研修に当たりご協力いただきました消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様、講師の皆様にご心より感謝を申し上げます。

肩・腰背部・足の後ろ



方法

- ・お互いに向かい合い、肩幅より広く足を開き、両手を相手の肩の上に乗せる
- ・両ひざを伸ばしたま、お互いに体を前屈し、肩、腰背部から足の後ろの筋肉を伸ばす

ポイント

- ・体を前屈した際に、両ひじ、ひざを曲げない

股関節の付け根・体幹



方法

- ・両足を開き、つま先を外側に向け、両手をそれぞれのひざの上におく
- ・両手でひざを外側へ開き、腰を低く落とし体をひねりながら足の付け根と体幹の筋肉を伸ばす

ポイント

- ・ひざを外側に開き足の付け根を伸ばすことをイメージする



今日も元気で消防団活動
ヨシ!

出雲市消防団マスコットキャラクター「いずもりくん」